

昨年7月下旬、第4回村上春樹国際シンポジウムで「村上春樹とランニング—活字媒体を中心に—」というテーマで発表し、予想外に好評を得たので、今年再び発表を応募した。運よく採択された。今回（第5回村上春樹国際シンポジウム）は「村上春樹文学における秩序（order）」というテーマであったが、研究発表のテーマは割と自由であったので、今回も採択されたのだと思う。

2016年5月27日の夕方6時過ぎに家を出て、関西空港へ向かった。ジェットスターのキャンペーンで、航空運賃が非常に安かった。23時25分発、台北現地時間、翌日28日深夜1時15分着という便だった。安いにはわけがあるというキャンペーンだと思う。桃園空港に着いて入国審査が終わったとき深夜の2時だった。この時間だとホテルも取れないので、空港のベンチで雑魚寝をした。朝6時台のリムジンバスで台北駅へ。そのあと MRT（地下鉄）に乗り換えて淡水駅へ向かった。7時30分ごろなのに30度はゆうに超えている。暑い。暑いので、淡水駅から徒歩で行くのではなくバスに乗って大学へ行くと思った。淡水駅に着いてバスに乗ろうとしたが、乗り場が分からずうろうろ…。仕方がなく歩いて大学へ向かうことになった。セブンイレブン等で道をきいて歩くこと40分弱。やっと大学に着いた。淡江大学の落合先生、高知大学の奥村先生に久しぶりに再会。先生方と少し話をしてから発表の教室へ向かった。第一日目午前の部の最初の発表が終わって、次に私の発表。前回の発表「村上春樹のランニング—活字媒体を中心に—」は、ランニングは、彼の文芸活動にどのように影響を及ぼしているか等を中心に話をしたが、今回の発表「村上春樹とスポーツイベント、スポーツ観—活字媒体を中心に—」は、村上春樹のスポーツイベント観が中心であった。質問も割と出たが、今回取り上げていない前回のテーマである「村上春樹のランニングと文芸」についての質問もあって、少し驚いたのと同じ時に、前回の発表は相当インパクトが強かったのかなと思った。

無事発表が終わり昼食、昼食の時に奥村先生と談笑、その時に淡江大学関係者からスイーツのお土産をいただいた。その時、スイーツ好きな知人の顔が浮かんでにっこり。その人へのいい土産ができたと思った。

そのあと午後の部の口頭発表が始まり、それが終わって、次に「パネルディスカッション(1) テーマ 村上春樹各国言語翻訳における「秩序」」があったが、私は、翻訳が専門でないのと深夜に台北に着いたので、少しうとうとしてしまった。睡魔が襲ってきたので、会議の内容は、ほとんど上の空。ちょうどその時、「イタリアのことわざが…」という言葉ではとした。「翻訳者は裏切り者である」、翻訳は本当に難しく原文の意味と違って訳を

してしまう。特にことわざを翻訳するのは難しいということであった（と思う。寝ぼけていたので、違っていたら申しわけない）。そして、村上春樹の作品を翻訳するのも難しいことを言いたかったのでは…と思った。

パネルディスカッションが終わって第一日目が終わりと、懇親会場へ、そのころになると眠気も取れた。先生方と楽しく会食。特に席が隣だった交流協会の日本語の先生と楽しく台湾の日本語教育について話をした。

懇親会が終わり、台北駅の宿舎まで MRT に乗って行った。途中まで奥村先生をはじめ先生がたと一緒だった。そして、翌日、会議があるが飛行機に関係で、出席せず空港へ向かった。奥村先生も翌日の会議を出ずに帰国。先生と私の飛行機の出発時間が近かったので先生と帰りのリムジン是一緒だった。チェックインまで話をして、チェックインが来たので、さようなら。また会いましょうとお互い言って別れた。私は、12時45分の便で台北を出発、大阪に向かった。

前回も今回も交通機関の関係で全日程参加できずに残念だった。来年は神戸で行われるので全日程参加したいと思っている。次回の村上春樹国際シンポジウムは7月16、17日神戸開催なので多くの人に参加してほしいと思う。なお、この会議に興味のある人は以下のHP（村上春樹センター）を参照。

HP <http://www.harukistudy.tku.edu.tw/main.php>